

お知らせ

- ・アメニティ・アカデミー 第 期セミナー 7月13日(土) 草志舎
- ・名建築と音楽シリーズ 深川和美 at 北野異人館 コンサート 7月20日(土) 北野キャセリンハウス
- ・畑儀文、の合唱教室 7月22日(月) 草志舎
- ・第3回神戸ワーキングホリデー 8月6日(火)～9日(金) ヴォーリス六甲山荘

予告1 <第23回名建築と音楽シリーズ> 深川和美 at 北野異人館 コンサート

ソプラノ歌手深川和美さんのコンサートです。会場は神戸市北野異人館街にあるキャセリンハウス。有名なハンセルの設計で1899年に建てられた住宅を修復して、イベント会場として使っている建物です。広い庭のなかに瀟洒な姿を残す異人館で、美しい歌とお茶をお楽しみください。

日時 7月20日(土)午後2時(1時半開場)
出演 深川和美(ソプラノ歌手) 多久雅三(ピアノ伴奏)
参加費 会員3,000円 一般3,500円(お茶つき)
定員 60名(要予約) 定員に達し次第しめきります。
詳細は同封の案内チラシあるいはホームページをごらんください。



予告2 第3回 神戸ワーキングホリデー

8月6日から9日に開催するワーキングホリデーですが、すでに6人の日本人学生から参加申し込みがありました。これはトラスト・ユース・センターの活動ですので、二人の学生会員が中心となって企画しており、参加学生の意見もとりたいと6月30日に第1回のオリエンテーションを行いました。次回の打ち合わせは現地で行います。学生さんたちも積極的な参加姿勢をみせてくれて、これからが楽しみです。ただ留学生からの申し込みがまだありません。お知り合いにおられたら、どうぞお声をかけてください。

ワーキングホリデーのスタッフ募集

この活動をささえるスタッフが大勢必要です。内容としては、作業の準備、作業の管理、足となる車の提供、厨房、買い物、宿泊管理などなど・・・それらの仕事を担当するスタッフを募集します。募集用紙はこのアメニティ便りに同封するかあるいはメールでお送りします。どうぞこの活動を成功させるために皆さんのお力をお貸しください。



ご報告1 建物の保存を考える in Tokyo 6月15日(土) 鎌倉

大変充実した半日でした。別荘地であり文化人の愛した鎌倉にはすてきな近代建築がたくさん残っており、「歴史の町」とはちがう姿で、「こんな鎌倉は初めて!」と参加者一同喜んでいただきました。ガイドをしてくださったガイド協会の千葉さんの案内ぶりもすばらしかったです。企画担当の東京会員の皆さん、ありがとうございました。



ご報告2 アメニティ・アカデミー 第 期セミナー第3回 6月8日(土) 草志舎
清水事務局長がナショナル・トラスト運動について語りました。本場英国の歴史と現状。日本での運動の展開と今後の課題。英国ナショナル・トラストを手本とする当アメニティ 2000 協会も100年後にこうして語られる存在になってほしいものです。



ご報告3 ヴォーリス建築文化全国ネットワーク大会 6月22日(土) 京都
盛会で、特に見学会は72名の参加という人気となりました。旧船岡邸、御幸町教会など印象的でした。夜の交流会は東華菜館の屋上で京都市中の夜景を楽しみながらのひと時でした。



京都YMCA 地塩寮

<アメニティ・アカデミー>

第 期セミナー「会員なら知っておきたい基礎講座」

第4回は現在「ならまち」として観光スポットにもなっている奈良市元興寺周辺の町並みの保存・復活に長年にわたって尽力された黒田睦子さんが講師です。市民の方々のならまち復興の活動についてのお話が伺えると期待しています。

第4回 7月13日(土)午後2時~ 草志舎にて

「市民の手で甦った元興寺界隈」 講師 黒田睦子(奈良まちづくりセンター理事)

受講料 1回につき 1,500円 (お茶代込み)

畑儀文の合唱教室

テノール歌手として第一線で活躍中の畑儀文さんは合唱の指導者としても定評のある方で、少人数での楽しい教室です。
まだ少し余地がありますので、参加ご希望の方は早めにお申し出ください。

月日 2013年4月~2014年3月(8月はお休み) 第3月曜日(但し7月は22日、9月は9日)午前10時半
7月は22日(月)

場所 草志舎(阪急西宮北口駅より徒歩3分)

参加費 11回通し 会員20,000円 一般25,000円 途中から参加(1回会員2,000円 一般2,500円)×残り回数

【コラム】

ワーキングホリデーとは?

清水 順子

ワーキングホリデーとはどんなものか、ご存知の方も多いと思いますが、簡単にご説明いたしましょう。文字どおり「仕事をする休暇」です。もともとは英国のナショナル・トラストが始めました。たとえば古い邸宅のレンガ塀の補修をする、庭の手入れをする、生垣の組み直しをする、といった、多少の指導があれば誰でもできる作業をしながら数日を過ごすものです。同じ宿舎に泊まって、同じ釜の飯を食べ、仲間と力をあわせて歴史的な建築物や自然資産を保全する作業を完成させるというこのプログラムは人気が高く、今ではヨーロッパやアジアでもこういう企画をするナショナル・トラスト団体が増えているそうです。主催する団体としては、人手を要する作業を無償で行えるということ以外に、ナショナル・トラスト資産への関心が深まるという点が大きなメリットといえるでしょう。

アメニティ 2000 協会は2010年に第1回のワーキングホリデーを開催しました。場所はもちろん私達の資産ヴォーリス六甲山荘です。こうしたホリデーに経験のある英国、韓国、台湾のナショナル・トラスト関係から5名が参加され、日本の学生4名と山荘の窓枠塗り、土間の床板張りなどの作業をしました。2012年は福島の子を6名招待して、阪神間の学生とベンガラ塗りをしました。今年の夏は日本在住の留学生と日本人学生による作業を予定しています。

休暇というのは観光する、遊ぶというのが普通です。わざわざ参加費を払ってまで労働をするのが楽しいのかと思われるかもしれませんが、一つの作業を完成させるという充足感、文化財などを守っているのだという満足感は他に代えがたいものがあります。六甲山荘やほかのイベントでスタッフをするのと同じ気持ちです。

今年のワーキングホリデーは8月6日から9日まで。ご参加の皆さん、おおいに楽しみましょう!

お薦めの本

高田 郁著 「みをつくし料理帖・八朔の雪」

市川 武

宝塚生れで、宝塚市在住の女性作家の料理小説をとり上げてみました。時は文化・文政の頃（江戸時代、第十一代将軍徳川家斉の時代）、所は江戸は神田明神下御台所町の蕎麦屋「つる家」です。

主な登場人物。

澁（みを）= 幼い日、水害で両親を失い、大坂の料理屋「天満一兆庵」に奉公。今は江戸の「つる家」で腕をふるう若き女料理人。

芳（よし）= もとは天満一兆庵のご寮さん（女将）、今は澁とともに暮らす。行方知れずの息子、佐兵衛を探している。

種市（たねいち）= つる家の店主。澁に亡き娘つるの面影を重ねる。

ふき = つる家の下足番。弟の健坊は料理店「登龍楼」に奉公中。

おりょう = 澁と芳のご近所さん。つる家を手伝う。夫は伊佐三（いさぞう）、子は太一（たいち）。

永田源斎（ながたげんさい）= 御典医永田陶斎（とうさい）の次男。自身は町医者。

野江（のえ）= 澁の幼馴染み。水害で澁と同じく天涯孤独となり、今は吉原翁屋であさひ大夫として生きている。

みをつくし料理帖に登場する人々を紹介しましたが、何やら心の中に一物を抱いた人達が織りなす悲しくて、楽しくて、そしておいしい江戸は神田の蕎麦屋でのお話なのです。

江戸っ子がみせるイセイの良い話しっぷりなどが面白い。料理帖なので「つる家」でだす料理の話が中心です。女料理人澁の作る料理は関西風味、それに江戸っ子が何やかやとケチをつけながらも、しまいには改良された関西料理に舌づつみを打つ姿などは、心温まる風情があります。又、そんな改良型の関西料理に舌づつみを打ちながら一杯やる小松原を名のるれっきとしたお侍とのやりとりも面白い。このお侍さんにほれちゃった女料理人澁。二人の運命はいかになることやら。むづかしい理屈なしに読んで頂きたい。巻末には料理のレシピが載っている。私にも出来そうな感じがします。みをつくし料理帖は八朔の雪に続いて、花散らしの雨・想い雲・今朝の春・小夜しぐれ・心星ひとつ・夏の虹・残月と続いている。みをつくし献立表というカラー版レシピ帖もでている。（角川春樹事務所・時代小説文庫）

おしゃべりアラカルト

「ナショナル・トラスト」の変遷を学んで

小林 由佳

ナショナル・トラストという言葉に初めて触れたのは、小学校か中学校の教科書で見たものだったと記憶していません。北海道の知床半島や関東にある「トトロの森」が写真付きで載っていて、当時の私は漠然と「ナショナル・トラスト＝自然保護活動」と結びつけて覚えていました。今回のセミナーでも触れられていましたが、日本におけるナショナル・トラスト団体は、そのほとんどが自然系の活動を主とする団体であるそうです。

先月のアメニティ・アカデミーのセミナーでは、その「ナショナル・トラスト運動」について、英国ナショナル・トラストと日本のナショナル・トラストがどのように発足し変遷してきたのか、清水事務局長からご講釈いただきました

た。社会事業家や牧師らを中心に英国で興った運動の理念が、鎌倉の御谷の森で日本の市民団体に伝わり、その後全国でそれぞれの地域に根づいた活動が生まれる過程は、聞いていてとても興味深いものでした。

歴史的建築物については、神社仏閣などなら残っているものが多いけれど、英国のように築数百年の家が大事に住まわれ続けることは日本においてほとんどない。地震の多い国だからか、という意見が参加者の間で挙がりました。

大学生になった今、ナショナル・トラストを再認識して思うことは、「せっかくの資産を地域の発展に生かしたり、人の憩いや交流の場として活用したりすることはできないか」ということです。それは英国で最初に活動を始めた先人達の、国民の共有地として歴史的財産や自然環境を大切にするという考え方に通じるところがあるのではないのでしょうか。

六甲山荘たより

6月の六甲山荘

先月号でもご報告しましたように6月1日（日）は貸切でウェディングが行われました。華やかで晴れがましい一日でした。山荘もさぞ喜んでいただけたことと思います。その後コンスタントに来場者がありました。

数年前から六甲摩耶ケーブルが主催している近代化産業遺産ハイキング（エコツアー）の一行は六甲山荘でゆっくり時間をとられるようになりました。ガイドのあとを思い思いに散策され、ケーキセットを楽しまれる方も増えてきました。



建物の保存を考える in Tokyo・鎌倉

鎌倉文学館（旧前田侯爵別邸）



ハリス教会



吉屋信子記念館

